

はじめての 万葉集

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介いたします

vol.
127

世間の無常を厭う

「世間の無常を厭へる歌二首」と題された歌の第二首です。

「無常」とは不変のものはないことを表す仏教のことばであり、題詞や歌本文に「世間」とあるのも、この世を煩わしい仮の世ととらえる仏教的な考え方に基づくことばとみられています。これらのことから、「至らむ国」とは極楽浄土を指すと考えられます。

同じ題を持つ三八四九番歌には「生死の二つの海を厭はしみ潮干の山をしのひつるかも」と、生や死の苦しみのない彼岸を求める思いも詠まれています。

これら二首の歌には、河原寺の仏堂の中の倭琴の面に記してある、という注も付されています。「河原寺」とは明日香村川原にあった川原寺のことで、現

世間の 繁き仮廬に 住み住みて

至らむ国の たづき知らずも

作者未詳 卷十六(三八五〇番歌)

在は弘福寺が建つ場所にあたります。

川原寺は、斉明天皇の川原宮跡に、その子である天智天皇が建立したといわれています。飛鳥寺・薬師寺・大官大寺とともに飛鳥の四大寺に数えられる大寺院でした。発掘調査によって特異な伽藍配置であったことが確認され、川原寺跡として国史跡に指定されています。橋寺の北に位置し、回廊や塔の跡を自由に見学することができます。

『日本書紀』卷第二十九朱鳥元年四月十三日条には、この川原寺に置かれていた伎楽団を筑紫に派遣して新羅国の客人をもてなしたとも記されています。仏教的な内容を表現した二首の歌が「倭琴」に記してあったということとあわせて考えると、古代寺院と歌舞音楽との間には、現代人が想像する以上に密接な関係があったようです。

仏教の影響がほとんどないといわれ

訳 世の中という煩わしい仮の宿りに住んで来て、これから至る国への手段を知らないことだ。

る『万葉集』ですが、それは「釈教歌」などを載せる後世の和歌集と比較してのことであり、今回のように仏教に関連する歌も収められています。
(本文 万葉文化館 井上さやか)



万葉文化館 イベント情報

◆ 特別展 富本銭特別展示

天武天皇と(飛鳥・藤原)の文化

開催中〜12月8日(日)

富本銭が造られた7世紀後半、天武天皇から持統天皇へと継承された飛鳥・藤原の文化を考古資料や美術作品を交えて紹介します。



「方形三尊博仏
川原寺裏山遺跡出土」7世紀
奈良・明日香村教育委員会蔵



「観音菩薩立像」
頭部7世紀、体部18世紀
奈良・向原寺蔵

※県内在住、65歳以上の方は身分証明書を「提示」で半額。その他割引もあるのでお問い合わせください。

◆ ギャラリートーク 要観覧券

11月27日(水) 15時40分

特別展の内容をわかりやすく丁寧に解説します

◆ 万葉集をよむ

11月27日(水) 14時〜15時30分 無料

「夏の雑歌(2)」巻8・1472〜1479番歌

阪口由佳当館主任研究員

「定員」150人(先着・申込不要)

※オンライン視聴(定員なし)

は要申込

◆ にぎわいフェスタ万葉 秋

開催中〜12月4日(水)



奈良県立 万葉文化館
☎0744-54-1850
www.manyo.jp